

議会報告会実施報告書

開催日時	令和元年5月11日 午後1時30分～疑義3時00分	開催会場	土田地区センター
出席議員	天羽良明 勝野正規 酒井正司 出口忠雄 山田嘉弘 渡辺仁美 高木将延 川合敏己 伊藤健二 田原理香		
班長	川合敏己		
参加者数	12名		
実施内容	災害への備え		
質疑および 主な意見等	<p>&lt;1グループ&gt; 報告者 <u>勝野正規</u> 記録者 <u>天羽良明</u></p> <p>参加者の意見</p> <p>自治連合会副会長、自治会長のメンバー3名から、斬新なご意見をいただいた。住民から改めて火災放送中止については、情報弱者を増加させないように、独居高齢者への伝達について、放送に匹敵する対策の検討が必要と感じた。</p> <p>◎火災放送について</p> <p>質問1：火災放送システムは、本当に危険な時でもつかわないのか？</p> <p>回答1：広域市町で運営してきたが、可児市と美濃加茂市が使用しない。「FMらら」や「すぐメールかに」の使用を進めていく。</p> <p>質問2：ずいぶん静かだがやめたのは、火災放送だけか。</p> <p>回答2：行方不明者の捜索のお願い放送は続いている。</p> <p>その他意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スマホやメール、ネット社会は、わかるが独居高齢者などが孤立しない様な代替策を立ててからやめて欲しい。</li> <li>・先日、自治連に市から説明をうけたが、理由が費用対効果など説得力にかけると感じる。夜勤もある、うるさいなどの市民の声は、あがると思うが屈することなく説明し説き伏せるぐらいの対応力が必要だった。</li> <li>・基本的には、市の職員は迅速に対応しているが、4つの柱に人材（市の職員）を育てることが必要である。</li> </ul> <p>◎4つの柱について</p> <p>質問1：職員の目標管理や人事考課は行っているか？</p> <p>回答1：行っている。</p> <p>その他意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大型ショッピングセンターの誘致などにも市のマンパワーの強さが影響していると感じる。地道な業務対応とプラス、時には、思いもよらない発想で突き進む破天荒な職員を養成すべきだ。</li> <li>・災害事例で、水道インフラは、鉄管も老朽化する、継ぎ目も水漏れする、見えないところでいうと愛知用水は、大丈夫かを確認しておいた方がよい。</li> <li>・上司が評価し引き上げるような方策が必要だ。</li> </ul> <p>◎災害備蓄について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会の備蓄の状況としては、各自治会では、水、食料備蓄は少なくな</li> </ul>		

っている。理由として、各家庭での意識が向上してきている。カセットコンロなども家にある。

#### 意見

・災害時は、3日は、自分で命を守るべきだ。1週間は、不便な生活が続くという想定が各自必要である。

#### ◎防災士について

#### 意見

・自治会から2名増員する。大災害の時に、入手した情報をさばく、次の行動につながるよう「災害情報士」のような能力が備わるように、次は指導いただきたい。

・アマチュア無線をやっている方の活用は有効だ。また、コンビニや企業との災害協定の締結先を増やすべきだ。

#### ◎土田地域の課題について

#### 意見

・防災は地域のつながりで乗り切るべきだ。土田の自治会加入率は、年々低下している。自治会に加入するかしないの判断が、メリット、デメリットの判断をしている。みんなで助け合って生きていこうと説明している。

・各自治会で温度差がある。ある自治会だけ頑張っているだけでは、加入率は改善しない。また、自治会は、任意団体であることはわかるが、転入者に対し、加入のチラシを渡すだけでなく、全面的に力説するぐらいの啓蒙が必要であり、行政と自治会でタイアップして進めていくべきだ。

・外国籍の転入者の自治会加入が進んでいないのではないかと感じる。教会に行政とともに声かけ、説明をすると加入の糸があるかも知れない。

<2グループ> 報告者 酒井正司 記録者 出口忠雄

質問1：木曾川堤防は美濃加茂市側より可児市側の方が高くなっているのか。

回答1：可児市側に影響が少なくなるような構造に、改修がなされている。

質問2：少子化が進む中、可児市は工場誘致に力を入れているが、誰にメリット出るのか。

回答2：可児市の雇用促進が期待できる。

#### その他意見

・風水害は余り心配していないが、火災が怖い。

・水道が断水しても井戸水が出る。

・地域の自主防災会があり活動している。

・可児市の魅力→住みたい所になって欲しい。

・以前可児市から、地区センターが中心となり地域の活性化に努めて欲しいと話がありました。

・地域の世代交代について→移住者が多くなり地域文化の衰退化が進んでいる。

・鳩吹山に多くの人 coming が、地域の活性化に活かさないか。

・地元文化の活性化に繋がるような場所とPRをお願いしたい。

- ・地元文化との組み合わせで地域の活性化を図れないか。
- ・地元グルメも含めて埋もれた観光資源を活かして活性化に向けた活用をお願いしたい。

<3グループ> 報告者 山田嘉弘 記録者 渡辺仁美

災害対策を話し合う上で、地域が課題とする、以下の内容を中心に話し合いがされました。

質問1：災害対策関連の予算額について充足しているか、疑問であるが、少なくとも次の内容が盛り込まれることを望む。

① 自主防災活動の強化

毎年一回、50名の増員を図る防災士の養成講座は、拡充して人数を増やす。これは防災啓発につながるだけでなく、発災時の減災に欠かせない。

② 避難訓練などの内容の見直しをする。新たにメニューを加えるなどにより、地域住民の関心と防災知識の向上を図る。

回答1：予算額は適正であると考えますが、このような意見を今後の予算編成に反映いく。

質問2：自治体加入率低下について

土田地区の自治体加入の現状は、約4000世帯中1700強と、半数を大きく下回った。加入率アップのための特効策がないまま、他地域同様、大きな課題となっている。

① 共助を必要とする高齢世帯の退会が目立つ。このような退会を未然に防ぐための方法として、非自治会員になることのデメリットを伝えていく。たとえば、ゴミ出しの困難や、発災時の避難所での優劣などを説明していく。

② 外国籍市民の非加入問題

戸建て家屋に居住する外国籍世帯が、この土田地域では増えてきているが、彼らは独自のコミュニティを形成することにより、自治体加入の必要性など考えにも浮かばないように見受けられる。

回答2：市内各地区で、同様の低下が見られることを議会も重く受け止めており平成31年度予算に対して提言を行った。(議会のトビラ5ページの紹介)

質問3：街路樹の老木化について、風水害時の倒木により、道路を寸断したりなど、経年で折れやすくなった街路樹の問題を今後どうしていくのか。

回答3：災害時の危険性の問題と景観の観点から、検討していく問題であると考えます。すでに伐採を順に進めている地域もあり、今後、計画的に進める必要がある。

<4グループ> 報告者 高木将延 記録者 川合敏己

質問1：可児市の山城跡に行ってみたが、入り口がわからなかった。案内看板をつけるべきではないか。

回答1：山城によって地域ボランティアが整備を行っている。11月に可児

市で山城サミットが開催される。議会からもわかり易い案内が必要と伝えられている。

質問2：可児駅前子育て健康プラザ「mano」は市民にうまく利用されているか。また外国籍の方は利用されているのか。

回答2：子育てのワンストップサービスができる。日本人も外国人も利用している。

質問3：土田地域の液状化は大丈夫か。

回答3：大丈夫と聞いている。

その他意見

- ・公民館の地区センター化は、今後まちづくりをしていく上で、その役割はとても重要である。
- ・市議会議員選の立候補者が少ないので、報酬あげたり、定員減らしたりするなど検討を続けて欲しい。
- ・夜間は施設が閉まっていてAEDが使えないところがある。24時間使える場所に設置すべきである。また使い方の動画が見れるようにできれば更によいと思う。
- ・南海トラフに起因する広域での地震災害ではまず災害被害が甚大なところに支援が優先されるため、可児市は支援が遅くなる可能性が考えられる。インフラやライフラインが途絶えた時どうするかを考えるべき。  
先ずは、各家庭での備えを徹底させる必要がある。行政で用意できる備品数を明示して備品数には限りがある事をわかってもらえれば、市民の災害に対する意識向上に繋がると考える。
- ・例えばマーノ施設のロビーに音楽を流すことができると居心地がよく子育て世代にもっと馴染まれると思う。
- ・木曾川遊歩道、鳩吹山、氷場等をもっとPRして土田地域のまちづくりに活かしていきたい。

令和 元年 5月 21日

可児市議会議長 様

可児市議会報告会開催要領の規定により提出します。

議会報告会 土田地区センター会場 班長 川合敏己